

事業報告

<研修名>

令和2年度 大分県公民館テーマ別研修会②

<開催日時>

令和2年9月4日（金） 13:00~15:40

<会場>

大分県立図書館2階 視聴覚ホール

<参加人数>

67名

<研修趣旨>

新型コロナウイルス感染症予防も含め、地域の防災・減災力を高めるため、事例に学ぶとともに 実践的な知識・技術の習得を図ることにより公民館職員としての資質の向上を図る。

<研修内容>

【研修1】事例紹介 「平成29年九州北部豪雨における公民館の対応」
発表者 日田市大鶴公民館 主事 高尾 徳昭 氏

平成29年の九州北部豪雨における公民館の対応とその後の大鶴地区における自主防衛組織の設立、地域の防災意識の高まりを紹介する発表。

地域住民の意識の高まりと継続は公民館の役割として重要。

【研修2】講義 「多様化・複雑化するリスクに地域はどう備えるべきか」
講師 大分大学減災・復興デザイン教育研究センター
センター長 小林 祐司 氏

『①「避難」の再考』と『②「住む」ことの再考』をキーワードとして身近な防災の心構えに始まり、将来100年くらいのスパンで考えるべき事柄（住む場所や地域の在り方）について都市計画にも踏み込んだ内容の講義。

<当日の様子(写真)>

【開会行事】開会挨拶
大分県公民館連合会事務局次長 矢野 修



【研修1】
事例紹介「平成29年九州北部豪雨における公民館の対応」
発表者 日田市大鶴公民館 主事 高尾 徳昭 氏



【研修2】
講義「多様化・複雑化するリスクに地域はどう備えるべきか」
講師 大分大学減災・復興デザイン教育研究センター
センター長 小林 祐司 氏



<参加者感想>

- 小林先生の行っている“防災教育”楽しく子どもたちと学ぶということがとてもいいなと思いました。機会があれば来てお話ししてもらいたいです。日田市の事例もお話いただきましたが、今週末の台風やこれからの災害への対策を再考し、生かしていきたいと思いました。
- コロナや台風など非常時の対応を考える材料となった。いざやるといふときになっては遅いので、常時イメージを持ちながら考えていければと感じた。
- 避難所を運営していくのに、地域の防災士さんと連携できると良いなと思いました。
- 公民館というワクの中だけで考えず、広い視野で見ることが第一歩だと感じた。その意味で今日は良かった。
- 地域の実情に併せた防災・減災の取組について考えさせられた。
- 「リスクを正しく認識せずに十分な防災対策を取ることは不可能である」という言葉が大変印象に残った。
- 今後早急にやるべきことを具体的に示せるとよかった。(研修2は)内容が多岐にわたっているのも、より絞れると良かったと思う。
- 地域防災の研修や公民館の機能については5月～6月にしてくれたらと思います。
- インターネットを利用した非会場形式で行ってほしい。